

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2025年12月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す
(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数10、「好転」事業所数2、「変化なし」事業者数4、「悪化」事業所数4の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20%がDI値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

全産業のDIは売上額がマイナス10.2(前期比1.8ポイント低下)、採算はマイナス23.7(同0.3ポイント低下)、資金繰りはマイナス13.6(同0.1ポイント低下)となり、前期に引き続き主要3DI全てが前回より悪化した。いずれも低下幅は緩やかであり、特に採算と資金繰りはほぼ横ばいという状況であった。

今期の主要3DIを1年前の同時期と比較すると、売上額は4.3ポイント、採算は3.3ポイント、資金繰りは2.1ポイントといずれも上回って推移していることがわかる。

当期の業況を製造業、建設業、小売業、サービス業の4分野で見ると、製造業と建設業のDIには改善がみられた一方で、小売業とサービス業は前回から悪化という分野別に異なる結果となった。

経営上の問題点としては、引き続き材料価格や仕入れ単価を1番の問題としてあげる経営者が全体の3割程度を占めている。また、今回は「人件費の増加」や「従業員・熟練技術者の確保難」に関する指摘が再び増加しており、特に景況が改善した製造業と建設業でその傾向が強かった。多くの経営者が人材確保の面で問題を抱えている姿がみてとれる。

今回の調査結果では、中小企業全体の景況がやや足踏み状態にあることを示している。最新の日銀短観(2025年12月)の調査結果をみると、中小企業の業況判断はトランプ関税に対する懸念がやや和らいだことなどもあり、「最近」は改善したものの、「先行き」については製造業、非製造業ともに見通しが悪化した。海外景気の見通し、人手不足や物価の動向など、今後の景況に影響を与える内外経済の動向には引き続き注意を要する。

<地域別>

【全国】

2025年10-12月期の全産業の業況判断DIは、▲12.5(前月差1.2pt増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断DIは、▲11.0(前月差2.6pt増)となり、前月から改善した。

建設業の業況判断DIは、▲11.8(前月差2.2pt減)となり、前月から悪化した。

商業の業況判断DIは、▲17.9(前月差なし)となり、前月から変化は無かった。

サービス業の業況判断DIは、▲9.0(前月差4.6pt増)となり、前月から改善した。

産業全体において、売上額・採算・業況DIがわずかに上昇、資金繰りは横ばいであった。

物価高や人件費上昇によるコスト増が続く中、価格転嫁や自助努力で売上維持・微増している事例も見られた。

【兵庫県】

企業の業況判断は、足もとでは改善しているが、先行きは慎重な見方となっている。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は増加計画にある。

生産は、横ばい圏内で推移している。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲12.0で、全国DI(▲12.5)、兵庫県DI(▲16.5)と比較すると最も高い。

売上高は、▲18.0で、全国DI(8.2)、兵庫県DI(▲9.3)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲38.0で、全国DI(▲16.5)、兵庫県DI(▲25.1)と比較すると、最も低い。

資金繰りは、▲38.0で全国DI(▲14.3)・兵庫県DI(▲10.5)と比較すると、最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(サービス業)

- ・人口減少の中、競合他社が増加している(施術業)
- ・寒さの影響が大きく、来店客数が減少(美容室)

(商業 小売、卸売等)

- ・円安の影響で仕入単価が上がっているため、価格競争が厳しくなり続けている(ガソリンスタンド)
- ・物価が上昇していく中、販売価格転嫁が厳しく、顧客離れを懸念して踏み切れない(小売店、他多数)
- ・酒、たばこといった嗜好品を控えて、食費に回すためとにかく安い店を探す人ばかりである(小売店)

(建設業)

- ・外注先の確保が難しくなっており、受けた仕事を回していくことが困難である(建設業)
- ・セメントが1㎡あたり10,000円値上げする等、仕入れ単価高騰が著しい中、確認申請の承認までの期間が延伸したため、工事完了による入金も遅くなり資金繰りが厳しくなる(建築業)

(製造業)

- ・最低賃金は年々上がっていくものの、130万の壁がなくなるらないため、その範囲内で勤務したい方は労働可能時間が減少する。人手不足で新しい採用も厳しい中、今まで以上に労働力が不足するため、その労働力不足を経営者が補填しなければならず肉体的な負担が増している(食品製造業)

<業種別業況>

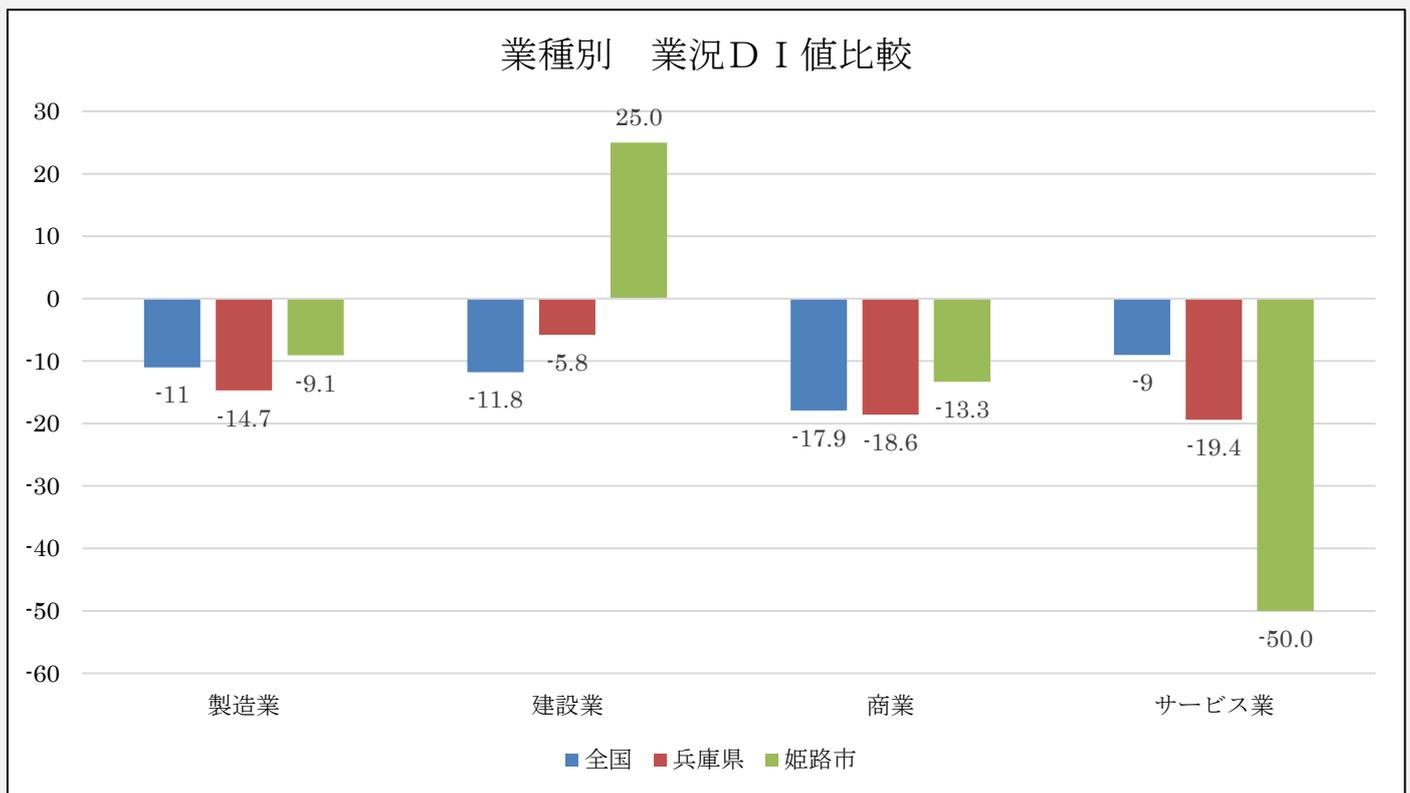
産業全体の景況は、売上額・採算・業況DIはわずかに上昇、資金繰りDは不変であった。業界・業種間での景況感、年末需要の影響を受ける業種は好調な一方、機械・金属製造業や建設業では先行きに不透明感が残る結果となった。

<総括コメント>

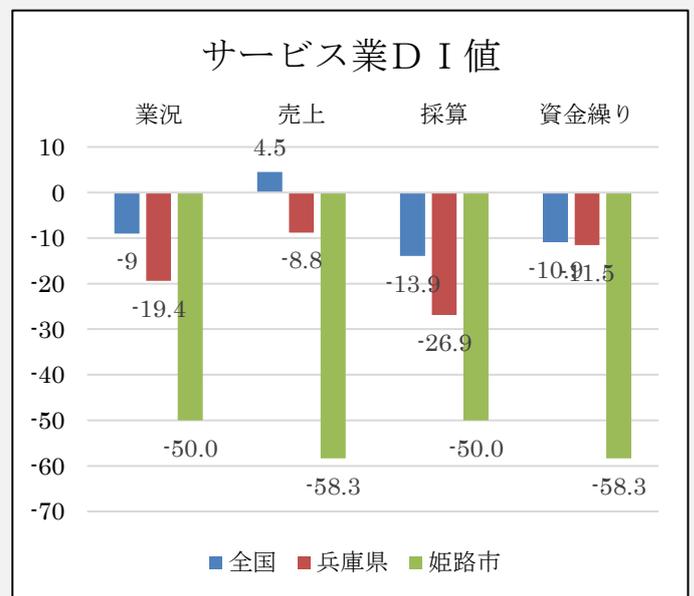
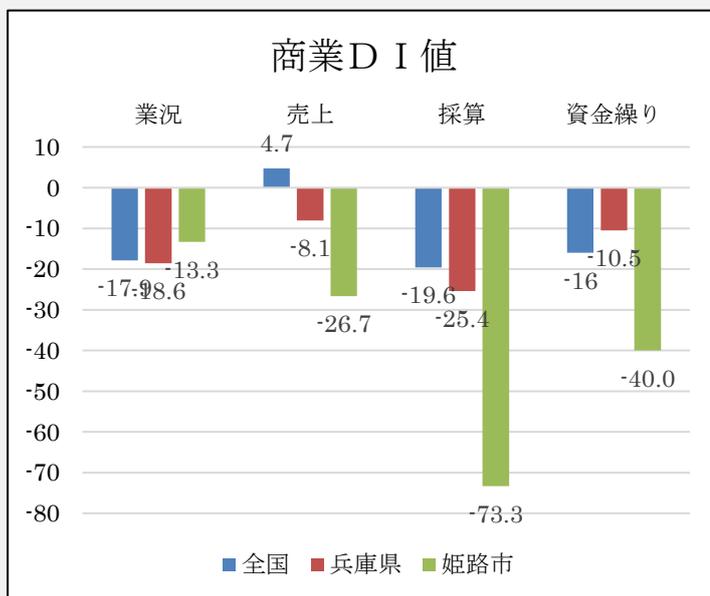
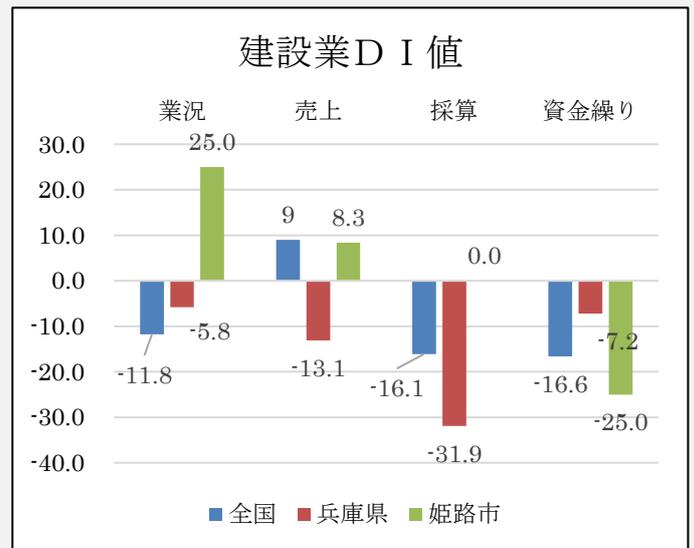
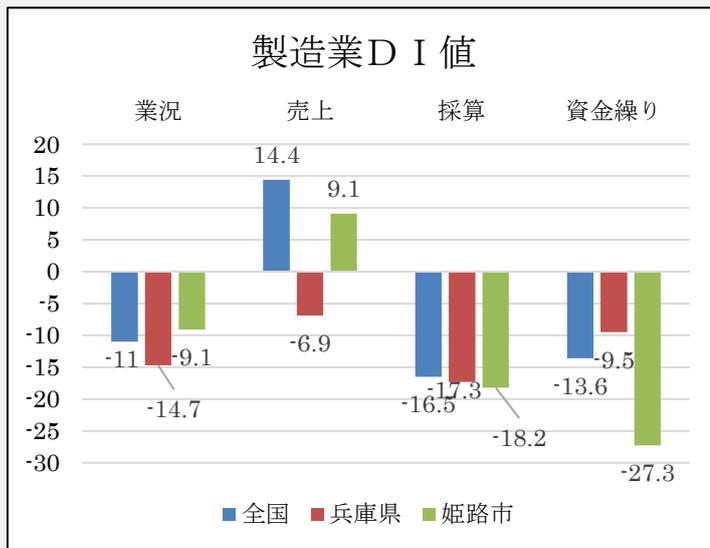
国内景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。

加えて、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響なども、我が国景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。

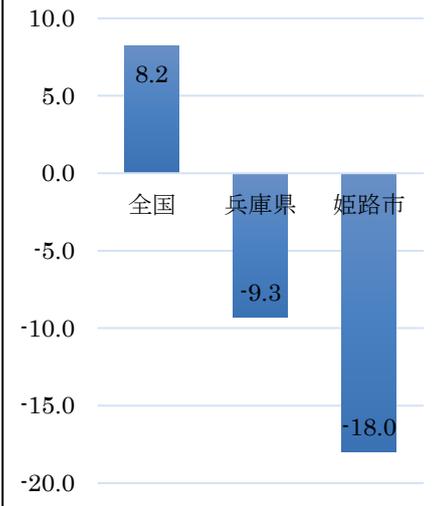
業種別 DI 比較グラフ



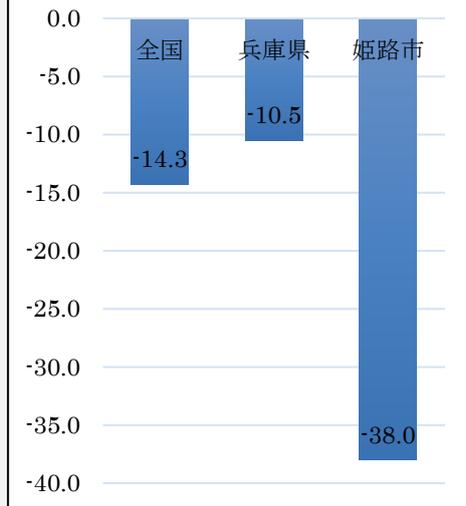
全業種 DI 比較



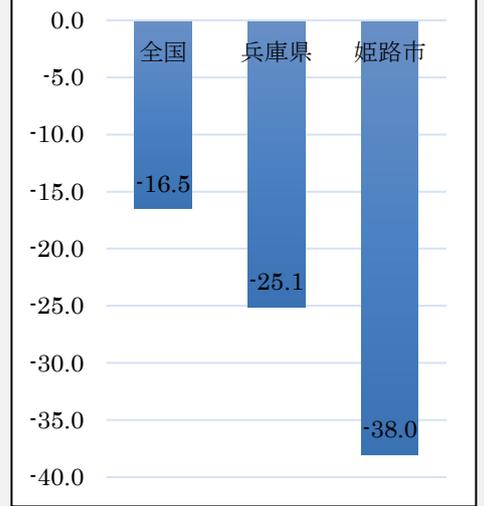
売上D I 値



資金繰りD I 値



採算D I 値



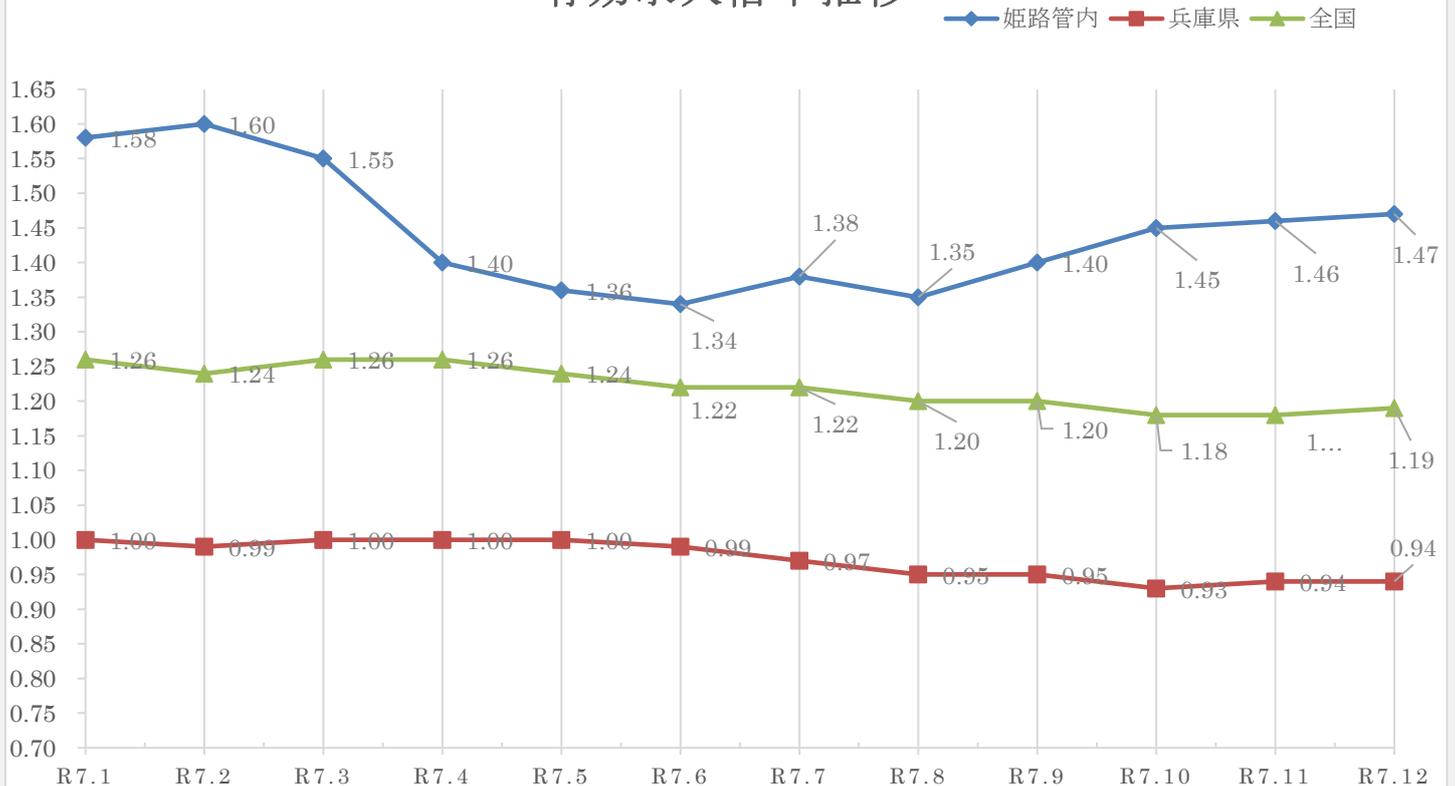
管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍
 令和 7 年 12 月期の有効求人倍率は、全国 1.19 倍、兵庫県 0.94 倍、姫路管内 1.47 倍となっている。
 令和 7 年 1 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。

姫路市は、令和 7 年 4 月頃からは 1.4 倍台から 1.3 倍台程度で推移しながら横ばい傾向であるが、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。

兵庫労働局は、県内の雇用情勢判断を据え置き、「求職が求人を上回り、持ち直しの動きが弱まっている」との見方を 3 カ月連続で示した。同時に、「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との指摘も維持した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較